

奄美群島の伝統文様の図形化と用途展開に関する研究

企画支援部

1 はじめに

奄美群島は、地理的にも歴史的にも独自の文化を育んでおり、中でも「針突（はづき）」は、明治初めまで女性の手の甲に施されていた独特な習慣で、これまで脚光を浴びてきませんでした。

そこで、針突の文様や奄美群島に残る他の文様（高倉文様）をデータ化・図形化し、複合利用するなどして新規文様を創出し、奄美群島内の企業と共同で伝統文様を利用した商品開発を行いました。

2 針突の文様や高倉の文様について

針突は、沖縄や奄美の女性の手の甲や手首に施されていた入墨の習慣で、明治の初め頃の禁止令が出るまで行われていました。針突を施すことは女性の憧れでした。文様は部位ごとに様々あり、ほとんどが魔除けを願ったものですが、右手は親にしてもらい、左手は結婚後に配偶者にしてもらうなど背景が奥深いものです。

高倉は、古代南方型建築様式で造られた高床式倉庫で、その高倉の入り口に、様々な文様が施されています。入り口中央に1個もしくは対象的に2個施したものが多く。その意味合いは、東西南北を表したものや外敵を防ぐ呪術的なものなど諸説ありますが、昔は文字が読めない人も多かったとのことから表札的な意味合いが強いのではないかとされています。図1は2つの文様を図形化し、ポスターにしたものです。



図1 図形化した針突文様と高倉文様

3 文様を利用した商品開発

データ化された文様を使用し、島内の企業と共同で染織製品や木工製品など様々な商品化を行いました（図2）。店頭などで、針突の風習や文

様の意味などを説明すると、観光客だけでなく地元の人も関心を持って購入していただくと好評です。開発した商品は、開発企業のブログやフリーペーパー等で情報発信されています。商品の中には、公募展や特産品コンクールで入賞するなど新しい取り組みもはじまっています。



ネックレスやブレスレット



タペストリーや暖簾



草木泥染大島紬



携帯ストラップなど



タペストリー（藍染）



ショール（スパンコール）

図2 文様を利用した様々な商品

4 おわりに

今回の研究で、地域文化を反映した文様を商品展開すると、強いアピール力を持つ商品を生むことがわかりました。針突の文様は、女性に縁のあるものなので、今後は女性を意識した商品（女性向け黒糖焼酎や地元フルーツや黒糖を利用したスイーツ）のパッケージデザイン等に利用していただければと期待しています。奄美の伝統文様を利用して商品化を行いたいという企業等がございましたら、お気軽に企画支援部までご相談ください。

参考文献

- 1) 山下文武：奄美の針突—消えた入墨習俗，まろうど社（2003）
- 2) 高橋雅人：日本のしるし1家のしるし，岩崎美術社（1973）